

平成27年度天皇杯受賞者受賞理由概要
蚕糸・地域特産部門

生産・加工・販売が連携した緑茶の海外輸出の取組

○氏名又は名称 株式会社 やまま満寿多園（代表 増田 剛巳）

○所在地 静岡県御前崎市

○出品財 経営（茶）

○受賞理由

・地域の概要

御前崎市は、静岡県の中央南端部に位置し、北部は国内有数の茶生産量を誇る牧之原台地、南部は太平洋に面する自然溢れる地域である。特にお茶は農業生産額の3分の1を占めているが、お茶以外にも、施設野菜、露地野菜、花き、水稻など多様な農産物が生産されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

代表取締役を務める増田剛巳氏は、昭和54年、25歳のときに茶農家の5代目として就農し、昭和57年に有限会社やまま満寿多園を設立し自販を開始した。平成2年の株式会社化を経て、平成3年のアメリカへの輸出開始を皮切りに、本格的に輸出事業に着手した。平成23年の東日本大震災による原発事故の影響で輸出量は一旦減少したものの、その後の経営努力により、平成26年度現在では震災前を大幅に上回る274トン(27カ国)の茶を輸出している。

・受賞者の特色

(1) 系列農家と一体となった茶園管理の取組み

やまま満寿多園では、系列の農家の意欲や知識の向上を図るための相互茶園巡回や研修会を開催するなど、茶園の一貫管理を行っている。また、自ら乗用型摘採機導入のための基盤整備を進め、農家の摘採労力軽減にも取り組んでいるほか、肥料や資材の一括購入や防除体系の効率化により、生産コストの低減や年間防除回数の削減にも成功している。

(2) 海外需要に対応した生産・製造体制の整備

輸出先国の残留農薬基準に対応するため、フェロモン剤や土着天敵生物の利用、せん枝等の物理的防除を組み合わせた防除体系を研究し実践するとともに、有機JAS認証とNOP認証(米国の有機認証)を取得し、有機栽培茶の生産も伸ばしている。また、「茶工場は食品工場」を理念とし、栽培から製造までの記録管理、茶工場のエアシャワーや金属探知機の設置を進めるなど、衛生管理の徹底に取り組んでいる。

(3) 御前崎茶のブランド力向上と地域貢献

御前崎市として普及拡大を推進している茶品種「つゆひかり」の地域ブランド化に向けた宣伝・販路拡大に積極的に取り組むほか、地元の小学生を対象に「お茶博士になろう」をテーマに茶摘み体験やお茶の勉強会を17年間継続して実施している。

・普及性と今後の発展方向

国内における緑茶需要が低迷している昨今において、20年以上前から輸出事業に取り組み、成果を上げているやまま満寿多園においては、今年6月にオランダのUTZ認証(労働者の人権や労働環境などに配慮し、持続可能な農業を実践していることを保証する認証)を緑茶として国内で初めて取得するなど、更なる海外販売の強化に取り組み、平成35年までに35カ国への輸出を目指している。やまま満寿多園が実施している地域の生産者や荒茶工場と連携した体制は、今後の食品業者と農業者が目指すべきビジネスモデルの一つと言え、今後の更なる活躍が期待される。